

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家 しらゆり棟		
所在地	〒023-0171 岩手県奥州市江刺田原字大日195-1		
自己評価作成日	令和3年10月21日	評価結果市町村受理日	令和3年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>令和3年度 グループホーム花の家 スローガン 「気づきを大切にし、考え、ケアを実施する」</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が掲げる理念を踏まえて、毎年、事業所独自のスローガンを定めているが、今年は「気づきを大切にし、考え、ケアを実施する」を目標にしている。具体的な取り組みとして、職員の気づきをきっかけとして、新たに職員提案による事務所ミーティングを実施している。職員が疑問に思ったことを話し合うこと、良かったこと、成功体験を全員で共有することなどにつなげようとしている。利用者の生活にとって最優先でもある食事は、職員が調理し利用者に食事を楽しんでもらうことを大事にした取り組みを実践しているほか、入浴も一日置きとしている。ケアプランの作成は居室担当者が各種情報を収集のうえ、ケアマネが原案を作成し全職員でのカンファレンスを経て完成しているが、事業所独自のプランシートを作成し、職員が理解しやすい家族にも説明しやすい工夫がみられる。コロナ禍でできないことが多いが、できることを考えながらケアに取り組んでいる事業所の姿勢は評価される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく、みんな仲良く」を理念に掲げ、利用者様が、生き生きとした生活が送れるよう支援している。	法人全体としての理念を踏まえ、独自に「気づきを大切にし、考え、ケアを実施する」を今年度のスローガンとして取り組んでいる。その一つとして職員の提案による事業所ミーティングの機会を設け、利用者の症状などの情報の共有やケアの充実に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も新型コロナ感染拡大防止の為交流をしていない。	地域の石山自治会に加入し、以前は総会への出席、水路清掃や草刈りなどの地域活動に参加し、田原保育所、小中学校の児童生徒や各種ボランティアも積極的に受け入れていたが、コロナ禍のため活動を縮小している。今後に向け、オンラインの活用を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地元区長、民生委員等の方々へホームで生活している利用者の状況や、支援の方法について意見交換の場を設けている。(今年度も新型コロナの為書面にて意見を求めている)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて意見交換の場を設け、ホームの生活の中で利用者の状況を伝えるとともに、意見交換を行っている。(今年度も新型コロナの為書面にて意見を求めている)	地域の代表的立場の方々や消防団分団長、民生児童委員、市総合支所、利用者・家族代表をメンバーとし、昨年3月からは書面による開催が続いている。委員から地区運動会や地域の文化祭への参加の誘いがあり、文化祭には利用者の作品を出品している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場に、健康福祉グループ長兼主幹に参加していただき、ホームの実情等について伝えるとともに、意見交換の場を設けている。(今年度も新型コロナの為書面にて意見を求めている)	市の担当者には運営推進会議のメンバーとして毎回出席してもらっている。市とのやり取りは電話が多いが、各種手続き等で支所窓口を訪問し、顔の見える関係を築いている。コロナ禍にあって、手袋、アルコール、マスクを支給されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「利用者の権利擁護委員会」を立ち上げ、身体拘束廃止に関する事項・高齢者虐待防止に関する事項を討議している。年4回会議を開催し、内容を職員全員に通達している。玄関の施錠は安全の為夜間のみ行っている。	会社として「利用者の権利擁護委員会」を立ち上げ、事業所としても指針をもとに身体拘束の廃止に取り組んでいる。現在、外部講師を招くことが難しいことから、ビデオ映像を閲覧する方法で研修を行なっている。スピーチロックやドラッグロックなどには特に注意を払っているほか、利用者の安全のための鈴の装着は、家族の了解を得て最小限のものとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「利用者の権利擁護委員会」を立ち上げ、身体拘束廃止に関する事項・高齢者虐待防止に関する事項を討議している。年4回会議を開催し、内容を職員全員に通達している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年初めまで、成年後見制度を利用している入居者が入居されており、制度に関する知識を有する職員いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様に対し不安や疑問点について十分に説明できるよう時間を確保している。改定に関しては改定理由を文書等で明示し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことができるようにしている。また、HP上でもお問い合わせフォームにて意見を言っていただけのようにしている。	設置している目安箱への投函は無いが、利用者家族が来訪した際には居室担当者が意思疎通を図るように心掛けている。利用者の家族の中には、殆ど来ない方もあり、どのようにするかが課題の一つとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表を含めた職員全員の会議を年に数回開催し、互いに意見を出し合っている。	職員の提案で新しい室内ゲームを行ったところ評判がよく、それ以来、職員の成功体験を皆で共有することが大切と認識している。勤務体制が異なるため職員会議を開けていなかったが、今年度のスローガン「気づきを大切にすする」を踏まえ、10月から職員提案による事業所ミーティングを始め、その定着化に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間に関しては、職員に主婦層が多いことも考慮し、夜勤の出退勤時間に関しては考慮している。また、資格取得に関しても本人の意欲等を勘案し必要に応じた支援を行っている。給与についてはキャリアアップに応じて昇給できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対応の仕方など定期的に利用者介護にかかわる事についての勉強会を実施し技術向上できるように努めている。諸研修に関しても受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、法人内にある別事業所との人事交流を通して、介護の質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、本人及び家族から要望等を聴取し、それをホームでの支援に生かせるようにケアプランを作り取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、家族から要望等を聴取し、それをホームでの介護支援に生かせるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の暫定ケアプランにて支援し、1か月程度で本人への最優先支援事項を職員で協議し、ケアプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ソーシャルディスタンスを考慮し、仲の良い利用者同士がいつでも会話できるように配慮している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	げんきだよりで日常の報告をしたり、時には家族と電話で連絡をとって家族の絆を大切にしている。面会に来られたご家族様に対して、入居中の状況を伝え、関係性を維持できるように支援している。現在はオンラインによる面会を推奨している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ対策で今年度も面会制限しているが、基本的に入居者様のご家族・知人などの面会希望は柔軟に対応している。	以前は、家族が利用者の居室を訪問したり、宿泊も認めていたが、現在はコロナ禍の関係から面会も制限している。利用者に家政婦経験者があり、お手伝いを進んでやりたいとの申し出があったことから、利用者の職業歴や生い立ちなどの情報を大切し、これまでの馴染みのある場所等との関係性の継続に努めていくこととしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソーシャルディスタンスに配慮し、気の合う利用者や隣り合わせに座るように配慮している。隣の棟へ行き来出来る雰囲気づくりをし、利用者同士が交流を深めるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合、必要に応じて関係機関に情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様毎の担当者を決め、その担当者が入居者の願望を聴いている。また、ご家族様から生活歴を伺い、本人の思いや願いを把握するよう努めている。	利用者との定期的なカンファレンスは実施していないが、入居の最初のアセスメントで利用者の思いの一端を把握するとともに、居室担当者が日常の暮らしの中から思いを引き出すことに努めている。体を動かすより歌が好き利用者、洗濯ものを干したり畳むことが得意な利用者、新聞や書籍が好き利用者等々、利用者個々の持ち味や意向を把握し職員で共有しながら、馴染みのない共同生活にあっても、職員が利用者の気持ちに寄り添うことの出来るケアに努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの経過や自宅での生活の様子を聞いたり、日常生活から見える本人の状況を踏まえ現状を把握できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録や日課表の中に個人の行動、特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を踏まえ、ケアマネジャー、計画作成担当者、介護職員で話し合い、ケアプランを作成している。	居室担当者による利用者へのアセスメント、状態変化の確認、モニタリングを行い、全職員のカンファレンスを経て介護プランを作成している。短期目標が3か月、長期目標を6か月として、利用者の状況を把握しながら、プランの継続か変更かを判断している。ケアプランのシートは事業所独自の様式に書き込み、家族への説明にも活用している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するにあたり、気づいた事を介護実施記録の特記事項に記入したり、生活行動記録に記入し職員間で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度も新型コロナの影響で家族との面会も制限しているが、施設内の生活では入居者のニーズを聞き対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も新型コロナの影響で面会を制限している。			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たり、ご家族様から希望するかかりつけ医を確認している。かかりつけ医に対しては、受診時、情報提供書を送付し、ホームでの状態をわかりやすくお伝えできるように努めている。	事業所の協力医療機関として、2カ所のクリニック、一つの病院があり、大半の利用者が月1回受診している。事業所では入居前のかかりつけ医受診を尊重しているが、受診の付き添いが家族としていることから、変更を希望される場合が多い。職員に歯科衛生士が在職しており、口腔ケアも充実している。また、事業所での情報を事前にFAXで伝えるなど、医療機関との連携が出来ている。新たな協力医療機関として県立病院が加わったばかりである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が医療機関に入院した際、介護サマリーを医療機関に提示している。病院を訪問し、状態を確認したうえで関係者等と協議してホームに戻りやすい環境づくりを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談・契約締結時から、家族に対し、入居者様の最終的な生活の場、どのように生活したいのかについて時間をかけて聞くようにしている。	重症化等の指針は整備していないが、予め家族との話し合いを重ね、事業所の対応に納得をいただいている。食事の摂取が難しくなった段階で、医療機関への入院などを講じており、利用者の状態変化に応じ、デイサービスの看護師の助言・協力を得ながら、家族と協議を重ねて対応している。看取りを行う上での課題は、職員の理解としている。	事業所の在り方を踏まえながら、重度化や看取りに関し、当面、医師や看取り経験者等を講師とする研修を重ねていくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルをホーム内の職員が目にしやすい場所に貼っている。応急手当や初期対応について、マニュアルを作成し共通の認識のもとで訓練を実施している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施、夜間想定訓練も実施した。運営推進委員の消防団や近隣からの参加をいただき実施している。	市のハザードマップでは、水害等の対象地域には該当していないが、避難場所として田原地区センターや市総合支所が指定されている。消防団の協力等を得て避難訓練を実施しており、夜間想定訓練では、夜勤者が一人でどれだけのことをできるのかを確認しながら他の職員が見守る形で行っている。非常時に備えて飲料水を備蓄している。	飲料水のほかに、災害用の食品、照明機器、反射ストーブ、ガスコンロ、発電機、更には避難場所が必要とする用品等々の備蓄を進め、発災時に備えることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様にとって心地いい声掛けができるように対応している。	職員の一人一人が他の事業所へ出向き、接遇などの参考事例を取り入れながら利用者の気持ちを察する力を養成している。排泄の失敗の場面では、汚れよりも尿意を我慢して出ない方が良くないこととして、利用者本人に負担をかけない声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションの中で、本人の希望がある場合、本人の意思を優先させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表を作成して支援しているが、他に本人の希望があった場合は、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自発的に行う者、職員の声かけにて行う者とさまざまだが、理容は2カ月に1回利用している。		



事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の手指の消毒を十分に行い、トレー拭き、おしぼり作り等の手伝いをしている。	法人の栄養士が献立を立て、職員が交代で調理している。コロナ禍前は毎週1回、利用者と一緒にスーパーマーケットに買い出しに出掛けていた。「食事をたのしみにしてもらう」ことを大切に、食べたいものを利用者から聴いたり、行事食や毎日の献立に使用した食材を丁寧に説明するなど、利用者が食事に興味を惹くよう工夫している。おやつも手作りで、利用者も手伝いながら、羊羹や胡麻団子、牛乳ムースなどの幅広い食事を提供し、利用者からも好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。入居者様夫々の食事・水分の摂取状況を記録している。口腔体操を実施し、誤嚥等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自発的にブラッシング・うがい・義歯清掃を行っている利用者が何人かいるが、自力では厳しい利用者には職員が声がけや介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握のために、利用者ごとに排泄チェック表をつけ、出来るだけ自分で出来る場所は見守りをし自立支援を行っている。	利用者のうち3人が自立し、他の15人はリハビリパンツやパッドを使用している。ポータブルトイレの利用者はいない。排泄チェック表は声掛けのタイミングを図る目安として活用している。便意の無い方については定時に職員が誘導している。異性介助の問題もなく、失敗にも冷静に素早く対応できており、利用者に安心感を持ってもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給の働きかけをしているが、便秘がひどい時はかかりつけ医に相談し下剤調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の入浴に対するニーズや心身状況に合わせて入浴サービスを提供している。	一日置きに週3回以上の入浴を実現している。以前は隣のデイサービスの大浴場も利用していたが、現在はコロナ禍で見合わせている。入浴剤は不安な利用者がいるため使っていないが、季節ごとにゆず湯やしょうぶ湯を提供している。入浴は利用者の身体観察の機会としても重要な場面であり、その情報は職員で共有している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休んでいただいている。居室に限らず、ソファなどで休んでいただく場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し変更があった場合は服薬管理表に記載し、服薬後に変化が見られる場合はかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、後片付け、掃除等日々の役割を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合は外の散歩をするが、今年度も新型コロナウイルス対策で外出は控えている。その分ドライブの回数を増やしている。	コロナ禍前は、毎週買い物や外食で外出し利用者の気分転換を図っていた。現在は、晴れた日には外にテーブルを出しておやつを食べたり、事業所周辺を職員と散歩する回数を増やすなどしている。車椅子対応の軽自動車があり、利用者が必要とする外出支援に役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はなく、ご家族から預かってホームが預かり金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者が家族に電話をかけたいと申し出があった場合は、職員が間に入り話ができる様努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソーシャルディスタンスに配慮し季節毎の行事を行っている。また食席やテーブルの配置も利用者の間隔を広くしている。	ホールは、天井が高く日差しが入って明るい。床暖房、加湿器なども完備して快適な環境が保たれている。季節に応じ、七夕には青いビニールひもで作った天の川、夏には夏祭りの提灯などを飾っている。動ける利用者には掃除を手伝ってもらっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごす様配慮したり、食席に気の合う利用者同士に座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等ご家族様に確認し、持ってきていただける様配慮している。	居室は床暖房やエアコンで室温を整え、ベッドやクローゼットのほか各居室に鏡付きの洗面台が備えられている。各居室担当者が持ち物の確認と併せて、利用者の動線を優先した配置を行っている。テーブルやテレビを持ち込み家族が配置する場合もあるが数は多くない。利用者がいかに居心地良く過ごせるかを常に大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、食席や居室等に名前を書き、本人がすぐわかるように工夫している。日付け確認のために日にちや曜日がわかるようにホール内に表示し、レク時に一緒に声を出して確認している。		